

千年の森便り No.227

2022.08.27

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 福島成樹

編集 真鍋昌義

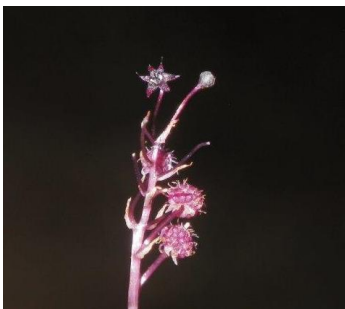
sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

8月16日(火) 晴 臨時活動日

神戸大学の末次准教授から、ホンゴウソウの分類と共生菌の調査のため、標本を送ってほしいとの依頼があり、中部林業事務所から許可をいただき豊英島と、豊英県有林の別の場所から標本を採取し神戸大に送付しました。豊英島での標本採取は福島が行いました。

採取作業中に膝の裏に違和感を感じ、よく見たところ大きなダニが付いていました。たぶん、タカサゴキララマダニだと思います。ヤマビルだけでなくダニにも要注意です。(福島)



ホンゴウソウ
上の星形が雄花
下の丸いのは雌花(実)



ホンゴウソウ採取の状況



タカサゴキララマダニ



ちょうど開花していた
トサノクロムヨウラン

8月21日(日) 天候 曇り

朝から怪しい空模様、島に入りきのご観察に向かう頃にはポツポツと雨粒が落ちてきました。それでも本格的に雨になることはなく、昼頃には日射しも出て活動に支障になるようなことはありませんでした。当日は、当会の会員である東大の鈴木先生と、東大院生の加藤さんも島で調査をしており、全員で顔を合わせたあとのご観察に向かいました。今回は、夏のきのこであるイグチ類を期待していましたが、種類はある程度出たものの発生量は少ない状況でした。9月の活動日、10月の秋のきのこ観察会に期待したいですね。

秋元さんは、コナラ伐採地の刈り払い、センサーカメラのデータ回収などを行いました。

ご参加いただいたみなさま、蒸し暑い中での活動お疲れさまでした。

参加者は、秋元、伊藤、鶴沢、大原、坂本、鈴木、福島、村野の会員8名と東大院生の加藤さんの合わせて9名でした。(福島)



みんなで腕を組んで集合写真



ナラ枯れとシカが植生に与える影響を調査している東大の鈴木先生(左)と院生の加藤さん(右)

〇きのご観察



島内では至る所に倒れた大木が放置されています。これらは2019年の台風による被害とナラ枯れで立ち枯れたものを危険予防のため切り倒したものです。人手が十分にあれば片付けたいのですが、現状では無理です。倒木にはウチワタケなどの木材を分解するキノコが密生していました。これらのキノコにとってはご馳走が山積みされている訳ですから、今は大饗宴の真最中です。

やがて倒木は腐朽菌に食い尽くされて土に還り、次に芽生える植物の肥料として再利用されます。吹春先生の言葉を借りればキノコは森の掃除屋さんで自然の循環を担っているから偉いという訳です。

一方、生きて植物と共生する菌根菌にとってはエネルギーを供給してくれるスポンサーに枯死されて、共倒れになっていると思います。特にブナ科の植物と共生する種の発生は秋の本格的なキノコシーズンになって少ないと思います。さて結果はどうなるでしょうか。(坂本)

〇確認したきのこのリスト (間違っているかも)

| | |
|-----------|-------------------------|
| チチタケ | 栃木県ではよく食べられている |
| アイタケ | 傘に特徴のある色合い |
| ウコンハツ | きれいなレモン色 |
| カラムラサキハツ | 傘の赤みが濃く紫色がかかる |
| ケシロハツモドキ | 乳液がめちゃ辛い |
| カワリハツ? | |
| キイロイグチ | 傘から柄に黄色い膜あり |
| キアミアシグチ | 柄に網目模様が目立つ |
| キクバナイグチ | 傘の様子が美しい |
| イロガワリ | 管孔の青変性が強い |
| アワタケ | 管孔が粗く青変する |
| コテングタケモドキ | 毒?無毒? |
| ヘビコノコモドキ | 傘にも柄にも灰褐色の模様あり |
| フクロツルタケ | 大型のツボあり |
| ガンタケ | 傘に多数のイボ、白色のツバ |
| ナラタケモドキ | ナラ枯れで伐採したコナラに発生 |
| クロラッパタケ | 傷んでカビが発生していた |
| ノウタケ | 新しいものを切ると中はまるではんぺん |
| ニガイグチの仲間 | 傘は黄褐色のピロード状、ヒダは薄紫色、多数発生 |
| ベニタケの仲間 | |



チチタケ



アイタケ



カラムラサキハツ



ケシロハツモドキ



ガンタケ



ナラタケモドキ



キイロイグチ



ニガイグチの仲間

○今月の花

前回確認した千年広場の脇のトサノクロムヨウランが開花しました。昼前に閉じていた萼片が午後1時半ころには全開となって、先端部に紫色の唇弁が見えました。通常この種は開花時間が明るい日の午前10時前後や早朝6時過ぎで、午後には花は閉じてしまうとされているようです。今回確認した個体は曇り空の中、昼頃から開花し始めました。たまたま、起きた狂い咲きでしょうか。ちょっと、変わっているようです。



トサノクロムヨウラン



アキノタムラソウ



オトコエシ



ナガバノコウヤボウキ



観察路

コナラ伐採地の低木や蔓を除去する秋元さん

コナラ伐採地は前回観察路を整備したため容易に観察することが可能になりました。確認した花は、アキノタムラソウ、オトコエシ、ナガバノコウヤボウキです。ナガバノコウヤボウキの一株は枝張りが80cmほどあり全体に花がついていました。その他緑色の実をつけていたのは、チゴユリ、ヤマユリ、サルトリイバラです。中高木区域の観察路と防護ネットの間にある樹木の周りの風通しを良くするために低木や草を除去しました。この作業を順次中高木区域全体の樹木に行い、できるだけ多くの樹種を残すために張りすぎた枝は剪定していきたいと思っています。(秋元)

○センサーカメラの動物たち

一組のニホンジカの親子が6月24日から7月17日までの間頻りに記録されていました。この親子が食べたのでしょうか5月に保護ネットに守られていたアオキもネットが破られ、挿し木のアオキは全滅しました。

ニホンザルの集団は子ザルに気遣いながら、ホテイ岬の先端まで活動範囲にしています。

不明種の鳥が7月3日午前3時過ぎにカメラの周りを飛び回る姿が記録されてきました。



ニホンジカ親子

設置期間：6月19日から7月18日まで

※日数は確認した日数です。同じ日に複数回記録されても1日としています。

CAM1：吊橋着岸点付近（カメラの不具合のため修理中です。）

CAM2：禁断の岬への分岐点付近

二ホンジカ 13日 昼間・夜間
アナグマ 5日 昼間・夜間
不明種 3日 昼間・夜間（鳥を含む）

二ホンザル 2日 昼間
ハクビシン 3日 夜間



アナグマ

CAM3：ホテイ岬先端付近

二ホンジカ 24日 昼間・夜間

二ホンザル 2日 昼間 (秋元)

鈴木先生のご挨拶

「東京大学大学院新領域創成科学研究科の鈴木と申します。15年前から東京大学千葉演習林を拠点として、房総の森林とシカの関係性を研究しています。本研究室から豊英島へは、マダニの研究をしている松山さん（博士3年）やナラ枯れの調査をしている加藤さん（修士1年）がお邪魔しています。豊英島は、房総南部には珍しく冷温帯の樹種の多様性が非常に高く、調査していてとても楽しい森です。なかなかお邪魔できませんが、学生とともに今後ともどうぞよろしくお願い致します。」

豊英島での調査

東京大学大学院 加藤大樹

東京大学大学院新領域創成科学研究科の加藤大樹と申します。昨年豊英島でナラ枯れ被害地での植物について調査をさせて頂いています。

ナラ枯れによりコナラが枯れて葉が落ちると、そこに穴（ギャップ）ができます。そうすると地表まで日光が届き、これまで十分に光合成できなかった小さな木も成長できるようになります。その時に新しいコナラが育つのか、それとも別の種類の樹木にとってかわられるのか、あるいはシカに食べられてしまうなどで成長できず樹木が無くなったままになってしまうのか、などが起こり得る未来として考えられます。どのシナリオが実際に起こりそうか、またギャップの内外やシカの有無といった条件の違いがどのように影響するのかを調べています。

昨年はほとんどコナラの実生がみられず、コナラの更新は絶望的かと思っておりましたが、今年は多くの実生が確認できました。コナラには豊作の年と凶作の年があると聞いておりましたが、これほど違いがあるとは思っていませんでした。これらの実生がどの程度生存し、成長できるのか、来年も調査に何う予定です。どうぞよろしくお願い致します。



コナラが枯死して生じたギャップ



コナラの実生

お知らせ

〇次回活動日は9月19日（月祝）です。

二ホンジカ生息状況調査、環境整備、8月にできなかったテーブルの補修作業、駐車場周辺の草刈り、危険木の確認とマーキング、可能であれば伐採作業を予定しています。10月のきのご観察会（公開行事）のための準備を兼ねて多くの作業が必要ですので、多数の会員のご参加をお願いします。

活動に当たっては、暑さ対策、ヤマビル、マダニ対策、危険防止のためのヘルメットの着用をお願いします。

なお、今後の感染拡大の状況によっては定例活動を休止する場合がありますので、ご了承ください。